実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（ シラバス）

科目名（英）	IR施設概論 Introduction to the Study of IR	必修選択	必修	年次	1	担当教員	三浦 健
学科・コース	IR・エアライン科	授業形態	講義	総時間（単位）	30 1	開講区分	後期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

国内の新たな産業、統合型リゾートについて世界で先行されている地域や事業者での事例を基に統合型リゾートについて学びます。また、2018年に制定されたIR法案についてや現在の地域やIR事業者の動向についても学びます。

（実務経験）㈱グローバルミクスにてIRの誘致に関するマーケティングやIR・カジノ関連のイベントの主催などカジノ関連事業を担当していた講師により世界の統合型リゾート及び今後の国内での動きなど今後のIRに向けた講義を行う。また、世界中の統合型リゾートを見て回りディーラーとしての実績を有する。

【到達目標】

① 世界の統合型リゾートについて比較することができる②幅広い統合型リゾートの職種も理解できる。③ 統合型リゾートの歴史を学ぶ。④ 国内のIR法案を理解することができる。⑤統合型リゾートの設置に関するメリットや問題について理解することができる。

授業計画・内容		
1回目	導入（IRとはどんな業界なのかを理解する）	
2回目	IRに関する比較を学び理解することができる。	
3回目	ラスベガスのIRの特徴とその歴史を学び理解することができる。	
4回目	マカオのIRの特徴とその歴史を学び理解することができる。	
5回目	シンガポールのIRの特徴とその歴史を学び理解することができる。	
6回目	日本のIRの特徴とIR法案を学び理解することができる。	
7回目	統合型リゾートにおけるホテルの役割について学び理解することができる。	
8回目	統合型リゾートにおけるカジノの役割について学び理解することができる。	
9回目	カジノ設置に向けて起こるであろう問題に対しての国・企業・部門の役割について学び理解することができる。	
10回目	統合型リゾートにおけるエンターテイメントの役割について学び理解することができる。	
11回目	統合型リゾートにおけるスポーツビジネスの役割について学び理解することができる。	
12回目	統合型リゾートにおける国際会議を含めたMICEについて学び理解することができる。	
13回目	前期のまとめと復習	
14回目	★評価週	テスト
15回目	★まとめ・追試/再試	テスト返却とフィードバック
準備学習 時間外学習	IRに関するニュースや地域の設置に関するパブリックコメント	
評価方法	定期テスト80%、 小テストおよびレポート20%	
受講生へのメッセージ	世界の統合型リゾートを事例として学び今後日本で開業する統合型リゾートがより良いものとなるように世界へ目を向けてください。Xそしてその特徴やすばらしいサービスを共に学びましょう。	

【使用教科書・教材・参考書】

サザンネバダコミュニティカレッジ監修オンライン教材

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（ シラバス）

科目名（英）	エアライン実務 Study of airlines bisiness	必修選択	必修	年次	1	担当教員	西村　幸治
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

航空業界でグランドスタッフ・管制官として経験を積んだ専任教員が経験した事例や体験談を伝える。航空業界で実際に必要な実務の知識をロールプレイングを基に身に着けます。

※実務者経験：日本航空にてパイロット訓練生として採用後、米国にて事業用操縦士ライセンスを取得。JALの経営破綻によりパイロットの訓練を中断し、グランドスタッフとして勤務。航空無線通信士を取得後、国土交通省にて管制官として勤務。

【到達目標】

エアライン業界における航空機内、空港で必要な接客スキルや業務内容を実務・ロールプレイングを通して身に着けます。

授業計画・内容		
1回目	授業の理解と目標設定/GS,CAについて理解する	
2回目	航空業界で働くその他の業種について学び、飛行機が飛ぶまでの流れを理解する。	
3回目	国内の空港3レター及び各航空会社における2レターを学ぶ。	
4回目	空港内勤務での無線の使い方を学ぶことが出来る。	
5回目	グランドスタッフ業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（カウンター業務チェックイン）①	
6回目	グランドスタッフ業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（手荷物預かり業務）②	
7回目	グランドスタッフ業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（ゲート内業務）③	
8回目	グランドスタッフ業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（アナウンス業務）④	
9回目	:WCHR PAX案内を学ぶことが出来る。	
10回目	キャビンアテンダント業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（搭乗時の業務）①	
11回目	キャビンアテンダント業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（機内サービス）②	
12回目	キャビンアテンダント業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（機内アナウンス）③	
13回目	キャビンアテンダント業務について学びロールプレイングを基に接客スキルを身に着ける（緊急時の対応）④	
14回目	★評価週	
15回目	★まとめ・追試/再試	期末テスト
準備学習　時間外学習		
評価方法	中間テスト50%　期末試験50%	
受講生へのメッセージ	エアライン業界には皆さんがまだまだ知らないことがたくさんあります。CA/GSを経験されたプロからたくさんのことを学び就活に役立ててください。	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎にプリントを配布

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	ホスピタリティヒューマンスキル Hospitality human skill	必修選択	必修	年次	1	担当教員	若杉　亮
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

日本ホスピタリティ推進協会のホスピタリティ・コーディネータ教本をベースに、ホスピタリティのフレームを理解し、サービスとホスピタリティの違いなど、ホスピタリティについて学びます。
※実務者経験：外資系ホテルのフレンチレストランにて勤務を皮切りに、レストランウエディングプランナーの経験を有し、和食・洋食・中華・バー・カフェなど様々な業態のレストラングループにて常務取締役に就任など様々なホスピタリティ業界で10年以上の経験を有する。及び日本ホスピタリティ推進協会の認定講師

【到達目標】

①理論と実践の両面からホスピタリティを理解し、マインドとスキルを習得する。
②日本ホスピタリティ推進協会認定 「アソシエイト・ホスピタリティ・コーディネータ（AHC）」の資格を取得する。

授業計画・内容		
1回目	ホスピタリティとサービスの違いを語源から理解することができる。　プロフェッショナルから学ぶホスピタリティの極意（動画視聴）	
2回目	ホスピタリティの実践①（適切な笑顔、身だしなみ、立ち居振る舞いができる）	
3回目	ホスピタリティの実践②（適切な会話、傾聴姿勢、言葉遣い、対応をすることができる）	
4回目	ホスピタリティの歴史と文化、日本のサービス産業の現状とホスピタリティの重要性を理解することができる。	
5回目	「相手の立場に立つ」ことの理解をすることができる。	
6回目	心のバリアフリーについての映像を基に理解することができる。	
7回目	★中間テスト実施　ホスピタリティの定義を説明することができる。	
8回目	ホスピタリティ業界と顧客満足の関係を理解し従業員満足につながるリーダーシップをとることができる。	
9回目	お客様へのアフターフォローを学び、ホスピタリティを基に顧客満足を獲得することができる。	
10回目	ホスピタリティを将来の職場で活かす企画・アイデアをグループワークをもとに考案することができる。	
11回目	ホスピタリティを将来の職場で活かす企画・アイデア（プレゼンテーション）を自身の考え方を提案することができる。	
12回目	自分自身でホスピタリティ・マインドの育て方を知ることができる。	
13回目	ホスピタリティのまとめ　社会人に向けて実践していくことを理解し、業界を目指すことができる。	
14回目	★評価週	
15回目	★まとめ・追試/再試	
準備学習　時間外学習	ホスピタリティ・マインドを身に付けるためには、自分自身がお客様になってホスピタリティを体験することや、日頃から意識して「相手の立場に立つ」ことを考え、行動してください。 また、ホスピタリティに関する書籍を自ら進んで読み、ホスピタリティ・マインドを高めてください。	
評価方法	●中間テスト（20点）　●定期テスト（80点）　割合で成績評価を行う。	
受講生へのメッセージ	ホスピタリティはどの業界においても必要とされています。本講義では、ホスピタリティについて学び、「相手（顧客）の立場になって考え、行動できる」力を身に付け、業界の即戦力になりましょう！授業で配布された資料はファイリングするなど必ず各自で保管をし、毎回持参してください。	

【使用教科書・教材・参考書】

教科書：ホスピタリティ・コーディネータ教本　日本ホスピタリティ推進協会
参考書：林田正光著　図解版ホスピタリティの教科書　あさ出版

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	ホスピタリティ・ヒューマンスキルⅡ Hospitality human skill Ⅱ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木 彩夏
学科・コース	IR・MICEマネジメント科	授業形態	演習	総時間（単位）	30 1	開講区分	後期

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

外資系ホテルや国内のホテルのコンシェルジュを経て、長年に渡り一般企業・短大・大学でマナーに関することを教えてきた専任教員から講義と実践を通じて、入社後に求められる社会人としてのマナーをひとつひとつ身に付けることが出来ます。

【到達目標】

自信をもって入社式に臨めるようにまずは心の壁を取り除き、必要なビジネスマナーを習得。さらにコミュニケーション力を磨くことが出来ます。

授業計画・内容		
1回目	オリエンテーションを受け、今後の授業計画を知ることが出来る。自身の希望する職種に必要なものを知ることが出来る。	
2回目	入社前に行うこと・社会人モードに切り替えることの大切さとは・履歴書の大切さを知ることが出来る。	
3回目	社会人としての基本動作と身だしなみ・仕事で役に立つ言い回し・敬語を学ぶことが出来る。	
4回目	前回の復習とまとめ・色彩深層心理学による自己分析・履歴書の提出が出来る。	
5回目	前回の自己分析を通して1分間の相手の心に響く自己紹介（300文字）が出来るようになる。	
6回目	自信が持てる話し方・プレゼンテーションの基本を学ぶことが出来る。	
7回目	中間テスト：1分間の自己PR	
8回目	仕事の進め方・メモの取り方・報連相のやり方・日報の書き方を学ぶことが出来る。	
9回目	電話を受けるときのマナー・かけるときのマナー・メールのマナー・ビジネス文書のつくり方を学ぶことが出来る。	
10回目	コミュニケーションの取り方・会話が途切れない言葉の選び方を学ぶことが出来る。	
11回目	前回の復習とロールプレイを行い、苦手な部分を克服することが出来る。	
12回目	TO　DOリスト・PDCAサイクル・情報収集の仕方・新聞の読み方を学ぶことが出来る。	
13回目	総復習を行い、不明確な点を明確にすることが出来る。	
14回目	★評価週	試験：ロールプレイ
15回目	★まとめ・追試/再試	
準備学習時間外学習		
評価方法	・履歴書（20%）・ロールプレイ（30%）・実技（50%）	
受講生へのメッセージ	授業を通して”小さな習慣”を身に付け、続けることで自信を付けて自分自身をチェンジしていきましょう。深層心理・カラー心理はとても楽しいです。	

【使用教科書・教材・参考書】

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	ユニバーサルマナー Comprehensive manner	必修選択	必修	年次	1	担当教員	若杉　亮
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

・ユニバーサルサービスとは何か、基本的な考え方から、必要性についての理解。
・多様なお客様の特徴と対応方法、実践的手法の基礎的理解。
※実務者経験：外資系ホテルのフレンチレストランにて勤務を皮切りに、レストランウエディングプランナーの経験を有し、和食・洋食・中華・バー・カフェなど様々な業態のレストラングループにて常務取締役に就任など様々なホスピタリティ業界で10年以上の経験を有する。及び日本ホスピタリティ推進協会の認定講師及びユニバーサルマナー協会ユニバーサルマナー検定習得。

【到達目標】

＜具体的な目標＞
・ユニバーサルサービスが求められる背景を理解し、多様なお客様の特徴と対応方法を習得する。

授業計画・内容	
1回目	講師紹介・自己紹介・ユニバーサルサービスとは何かを理解することができる。
2回目	・ユニバーサルサービスの基本的な考え方、求めれれる背景を理解することができる。
3回目	・高齢者に多い病気、認知症の理解、障害を理解することができる。
4回目	・バリアフリーの理解、様々な環境でのバリア、ユニバーサルデザインを理解することができる。
5回目	・高齢のお客様の理解と対応方法、車いす基本操作ができる。
6回目	・車いすを使用しているお客様の理解と対応方法（車いす基本操作実習）をおこなうことができる。
7回目	・配慮が必要なお客様の理解と対応方法（知的・精神・身体・内部障害、妊婦、子ども連れなど）を学び実践することができる。
8回目	・目の不自由なお客様の理解と対応方法（視覚障害体験と介助方法実習）を学び実践することができる。
9回目	を学び実践することができる。・目の不自由なお客様の理解と対応方法（視覚障害体験と介助方法実習）
10回目	・テーブルへのご案内（車いす・杖・視覚障害者）、立ち上がり方、座位姿勢を学び実践することができる。
11回目	・テーブルへのご案内（車いす・杖・視覚障害者）、立ち上がり方、座位姿勢の実践することができる。
12回目	・ホテル・航空・旅行におけるユニバーサルデザインを理解し、今後のユニバーサルデザインを考えることができる。
13回目	・ユニバーサルマナー検定3級講習
14回目	筆記試験
15回目	まとめ
準備学習　時間外学習	
評価方法	●小テスト（30%） ●実技または筆記（20%） ●定期テスト（50%） 割合で成績評価を行う。
受講生へのメッセージ	これから、高齢化社会に突き進むうえで、身体面でのサポートを必要とされる方が増えていく傾向となります。その上で、業界で活躍する上でもユニバーサルマナーを理解し、多様化するニーズに合わせて接客できる人材となれるようになれば幸いです。

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎にプリントを配布

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	観光概論 Introduction to the study of Tourism	必修選択	選択	年次	1	担当教員	安永　宣雅
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

ホテル業界で経験と実績があり、ホテルスタッフへ現場の研修を現在行っている専門の教員が講義形式で教え、より日本のホテル業界について学び、実習と就職の時に目標とするホテルのサービスを具体的に思い浮かべることができるようになる。

【到達目標】

日本における有名なホテルの名称とその特徴が言えるようになる。 また、ホテルの素晴らしいサービスとは何かを理解できるようになる。

授業計画・内容		
1回目	授業の進め方のオリエンテーション。ホテルにまつわる物知りクイズでホテルに慣れ親しむことができる。	
2回目	日本の御三家ホテルとは？なぜそのホテルが有名なのかを理解できるようになる。	
3回目	帝国ホテルのサービスについて理解することができる	
4回目	東京の有名外資系ホテルの名前を知ることができる。	
5回目	関東地区の御三家、外資系以外のホテルを知ることができる。	
6回目	関西の有名ホテルを知ることができる。	
7回目	スモールラグジュアリーのカテゴリーを知ることができる。中間テスト	
8回目	福岡のホテルの歴史を知ることができる。	
9回目	九州のリゾートホテルを学ぶことができる。	
10回目	ホテルのレストランはなぜ高いのかを知ることができる。	
11回目	ホテルの催事、婚礼を知ることができる。	
12回目	シティーホテルとリゾートホテルの違い、ホテルと旅館の違いを知ることができる。	
13回目	前期のまとめ	
14回目	★評価週	テスト
15回目	★まとめ・追試/再試	テスト返却とフィードバック
準備学習　時間外学習	福岡市内のホテルは積極的に訪問してロビーの雰囲気を見てきましょう。また旅行社にあるパンフレットをピックアップして自分の資料とすることも推奨します。	
評価方法	期末テスト100％	
受講生へのメッセージ	ホテルは素晴らしい業種です。人と人を結び、お客様の満足に直結する接客を担当するからです。いいサービスを提供するスタッフになれるように、まずは業界やホテルの特徴を知りましょう。そのお手伝いをしたいと思っています。	

【使用教科書・教材・参考書】

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（ シラバス）

科目名（英）	航空知識 Study of airlines industory	必修選択	必修	年次	1	担当教員	西村　幸治
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

航空業界でグランドスタッフ・管制官として経験を積んだ専任教員が経験した事例や体験談を伝える。航空業界で実際に使用されている用語や必要とされる専門的な知識を学ぶことが出来る。

※実務者経験：日本航空にてパイロット訓練生として採用後、米国にて事業用操縦士ライセンスを取得。JALの経営破綻によりパイロットの訓練を中断し、グランドスタッフとして勤務。航空無線通信士を取得後、国土交通省にて管制官として勤務。

【到達目標】

業界用語を学び暗記することが出来る。航空知識を身に付け就職活動に役立てることが出来るようになる。エアラインのことを知り興味をもって学ぶことが出来る。

授業計画・内容		
1回目	説明・アルファベットの読み方を理解できる。（空港コードの振り返りを行い暗記することが出来る）	
2回目	ヘボン式ローマ字・MEAL・SPCLコード・日付の独特な表記のしかたを知ることが出来る。①	
3回目	ヘボン式ローマ字・MEAL・SPCLコード・日付の独特な表記のしかたを知ることが出来る。②	
4回目	CIQ見学	
5回目	様々な航空運賃について知ることが出来る	
6回目	危険物と荷物に関して学ぶことが出来る。	
7回目	危険物の種類分けが自分でできるようになる。（中間テスト）	
8回目	飛行機と世界のエアラインについて知ることが出来る。	
9回目	航空業界の歴史について学ぶことが出来る。1	
10回目	航空業界の歴史について学ぶことが出来る。2	
11回目	各アライアンスのマイレージについて知り、どの様に活用できるかを学ぶことが出来る。	
12回目	JAL・ANAの歴史について学ぶことが出来る。	
13回目	CAの業務について学ぶことが出来る。	
14回目	★評価週	
15回目	★まとめ・追試/再試	期末テスト
準備学習　時間外学習		
評価方法	中間テスト50%　期末試験50%	
受講生へのメッセージ	エアライン業界には皆さんがまだまだ知らないことがたくさんあります。CA/GSを経験されたプロからたくさんのことを学び就活に役立ててください。	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎にプリントを配布

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	接客サービス Service simulation	必修選択	必修	年次	1	担当教員	安永　宣雅
		授業形態	演習	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

エアラインの接客をベースに、マナーや基本動作の観点だけでなく、サービスマーケティングを軸とした顧客体験への視点、及び顧客体験の最大効果を目的とした提供テクニックを接客側とお客様側で同時にロールプレイングを多用し学ぶ事ができる。全講義を通し、顧客体験を最大化できるサービススキルを身に着けたサービスパーソンに成長させる。

※実務者経験：ANA、JALなど国内を代表する航空系ホテルにてフロントオフィス、ベルサービスのマネージャーを歴任し12年の業界経験を経てホスピタリティ分野の専門学校にて10年の指導経験を有する。

【到達目標】

サービスマーケティングを軸とした高次元でのホテル接客スキルの習得ができる。顧客に与える体験効果を心理的観点などを踏まえ、最も効果的に表現する接客スキルの視点及び実践的なテクニックを身に着ける事ができる。

授業計画・内容		
1回目	講師紹介・学生自己紹介・サービスマーケティングを取り入れた接客スキルの解説	
2回目	空港におけるサービスマーケティングの基本概要を理解する事ができる	
3回目	空港におけるサービスマーケティングの基本概要を理解する事ができる②	
4回目	空港におけるサービスマーケティングと接客サービスとの関連性を実体験する事ができる	
5回目	サービスマーケティングを活用した接客サービスの基本を学ぶ事ができる（カウンター業務編）	
6回目	サービスマーケティングを活用した接客サービスの基本が学ぶ事ができる（ロビーサービス編）	
7回目	サービスマーケティングを活用した接客サービスの基本が学ぶ事ができる（インフォメーション編）	
8回目	サービスマーケティングを用いた感動サービスの構造を理解する事ができる	
9回目	サービスマーケティングを用いたホスピタリティサービスの実践的なテクニックを学ぶことができる。	
10回目	ホスピタリティサービスの実践的なテクニックを身に着ける事ができる（機内サービス編）	
11回目	ホスピタリティサービスの実践的なテクニックを身に着ける事ができる（レストランサービス編）	
12回目	ホスピタリティサービスの実践的なテクニックを用いて実際に感動サービスをクリエイトする事ができる（レストランサービス編）	
13回目	ホスピタリティサービスの実践的なテクニックを用いて実際に感動サービスをクリエイトする事ができる②（レストランサービス編）	
14回目	★評価週	知識確認ペーパーテスト及び実演テスト
15回目	★まとめ・追試/再試	総合理解へのフィードバック
準備学習 時間外学習		
評価方法	空港・ホテル・レストランにおけるサービスマーケティングの役割と実践テクニックの習得度及び理解度 またサービスマーケティングを軸とした感動サービスの基礎志向の習得度	
受講生へのメッセージ	私自身が、ホテル旅館現場で10年以上の実際の経験とノウハウをもとに、基本的な接客サービスではなくサービスマーケティングを用いた「サービスを科学する」との思考を基準とした自身で感動をクリエイトするサービス思考を身に着けて頂く。そして実践的に感動サービスを使いこなす事のできるサービスパーソンへと一緒に成長したいと思います。	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎にプリントを配布

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	日本の伝統と文化Ⅱ Japanese Traditional and Culture Ⅱ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	門田 貴理・小川　正人
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1	開講区分	後期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

池坊でいけばなを学んで、花の向きや動き・表情の捉え方、空間の取り方を学びました。花一本一本にも表情、個性があることを理解して、花を生き物として扱い、暮らしの中に取り入れていただきたいと思っています。日本で生まれたいけばなに親しんでみましょう。

【到達目標】

華道の歴史や道具について学ぶことが出来る。お花の知識を身に付け、基本的な生け花のスタイルを学ぶことが出来る。

授業計画・内容		
1回目	日本文化：華道の歴史、道具について　プリントを使って説明し、簡単にデモンストレーション　華道について理解する	
2回目	日本文化：盛り花　基本を知ることができる　剣山の使い方を理解する	
3回目	日本文化：盛り花　季節の花材を理解する	
4回目	日本文化：盛り花　枝物を使ってみる　枝物の使い方を理解する	
5回目	日本文化：投げ入れ　花留めについて考えてみる	
6回目	日本文化：自由花　自由に生けてみる 自由に考える	
7回目	日本地理：中部　①　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
8回目	日本地理：中部　②　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
9回目	日本地理：近畿　①　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
10回目	日本地理：近畿　②　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
11回目	日本地理：四国　①　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
12回目	日本地理：九州　①　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
13回目	日本地理：九州　②　の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
14回目	★評価週	自由花　自由に生けてみる 自由に考える
15回目	★まとめ・追試/再試	自由花　花材のいかし方を理解する
準備学習 時間外学習		
評価方法	授業内評価、レポート提出	
受講生へのメッセージ	難しく考えずに、花に触れてみましょう。使った花材は持ち帰って花瓶(コップ)でも良いので飾ってください。花を生き物として扱ってください。生け花の起源は仏様に飾ったことで、つまり他の人のために飾る、つまりおもてなしの心があることを理解しましょう。	

【使用教科書・教材・参考書】

池坊 いけばな入門、初めての池坊いけばな入門

実務経験のある教員等による授業科目の授業計画（シラバス）

科目名（英）	日本の伝統と文化Ⅰ Japanese Traditional and Culture Ⅰ	必修選択	必修	年次	1	担当教員	小川正人・門田 貴理
		授業形態	講義	総時間（単位）	30 1	開講区分	前期
学科・コース	IR・エアライン科						

【授業の学習内容】（※実務経験のある教員、知見を有する教員が、どのような授業を実施するのか、具体的に記載する）

大人を対象に「楽しく学べる書、長く続けられる書」の基本理念のもと、市内に書道教室を構え多くの方へ指導を行っております。この経験を生かして、書道の基本である楷書を学びながら、書くことの楽しさを体感してもらいます。実務に役立つ硬筆学習も毛筆と並行しておこない、どのようにすれば美しい字が書けるのか指導していきます。現在使われている漢字の成り立ちを学び、その奥深さ(例えば、“右”の書き順は払いからなのに、“左”は横画から書くのは何故なのかなどを、その成り立ちから理解してもらいます)や面白さを知ってもらいます。授業を通して多くの方が「書道」に興味を持っていただけるよう、楽しく指導していきたいと思います。

【到達目標】

書道の歴史について学ぶことが出来る。道具の種類や使い方を学び、正しく使うことが出来るようになる。字の成り立ちや正しい書き順を理解してお手本に沿って書くことが出来るようになる。書道を通じて集中力、忍耐力を身に付けることが出来る。

授業計画・内容		
1回目	日本文化：漢字の基本(楷書・行書・隷書・篆書)を学ぶことが出来る　字を美しく書くコツを学ぶことが出来る	
2回目	日本文化：楷書の基本点画（横画　縦画　左右の払い)を学ぶことが出来る　楷書「永久」を学ぶことが出来る	
3回目	日本文化：楷書の基本点画（曲がり　折れ　はね　点)を学ぶことが出来る　楷書「日記」を学ぶことが出来る	
4回目	日本文化：楷書「水玉」を学ぶことが出来る　漢字・かな(題材未定)の成り立ちを学ぶことが出来る ①	
5回目	日本文化：楷書「平成」を学ぶことが出来る　漢字・かな(題材未定)の成り立ちを学ぶことが出来る ②	
6回目	日本文化：楷書「天馬」を学ぶことが出来る　漢字・かな(題材未定)の成り立ちを学ぶことが出来る ③	
7回目	日本文化：楷書「会場」を学ぶことが出来る　漢字・かな(題材未定)の成り立ちを学ぶことが出来る ④	
8回目	日本地理：北海道 ① の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
9回目	日本地理：北海道 ② の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
10回目	日本地理：東北 ① の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
11回目	日本地理：東北 ② の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
12回目	日本地理：関東 ① の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
13回目	日本地理：関東 ② の観光施設や名産品などを学ぶことが出来る。	
14回目	★評価週	評価課題　楷書「一日生涯」 変更する場合あり
15回目	★まとめ・追試/再試	書道を学んでの感想や、字を書くことに対しての感想などの討論
準備学習 時間外学習	縦書きの硬筆を自宅で予習してもらいます。レベルは中学生レベルの楷書を予定しています。予習した作品を翌週提出してもらい、授業が終わるまでに添削して返却し、それを参考に再度自宅で練習してもらいます。課題は3週間程度毎に変更予定です。美しく書くコツや癖を直せるように指導します。	
評価方法	課題作品を仕上げてもらい、文字こどのバラン、余白と字のバランス、文字全体の調和、楷書の基本の習得状況を総合的に評価します。	
受講生への メッセージ	若い皆さんにとって、書道は古臭くて暗いイメージがあると思います。私の授業を受けると書道に対するイメージがきっと変わると思います。美しい字を楽しみながら学んで、同時に内面も美しくなりましょう。	

【使用教科書・教材・参考書】

当教室で使用している教材を使う予定です。